

日常診療を変えるエビデンスを皆様へ。

日頃より「今日の臨床サポート」をご愛顧いただき、ありがとうございます。
2025年1月に改訂された臨床レビューの中から、日常診療に大きく影響を与えるようなエビデンスをご紹介します。

エムポックス (サル痘)	・サル痘の名称については、偏見や差別を避けるため、WHOは2022年11月にエムポックスと名称を変更することを推奨した。日本国内でも感染症法上の名称が、2023年5月に「サル痘」から「エムポックス」に変更された。 ・サル痘ウイルス（MPXV）クレードIbの流行が2023年9月にコンゴ民主共和国で始まり、性的感染等により近隣国などに急速に拡大した。アフリカ大陸内外への更なる流行拡大阻止のため、2024年8月に2度目のPHEIC（Public Health Emergency of International Concern）がWHOより宣言された。2024年12月時点では、クレードIb MPXVは、コンゴ民主共和国東部と周辺諸国で主に流行している。 ・クレードIb MPXV感染は、主に密接な身体接触（多くは性的接触）を介して拡大する。家庭内や地域社会での感染も増加し、感染分布の変化により、小児患者の割合が増加している。動物との接触による感染は報告されておらず、ヒトとヒトの接触が主要な感染経路と考えられる。 ・国立感染症研究所によると、国内において2024年2月25日までに報告された240例のエムポックス症例は、すべてが男性であり、HIV陽性者が105例（61.8%）、症状としては発疹（89.6%）と発熱（72.5%）が多く認められた。HIV感染による免疫不全患者1例の死亡が報告されている。 ・抗ウイルス薬のデコビリマットが2024年12月27日に承認された。 ・日本で1975年に承認された痘そうワクチン（LC16m8）は、2022年8月2日、エムポックスの予防が追加承認された。 ▶ LC16m8は市場流通していないが、日本国内の各地域における8つの医療機関で、研究を通じてLC16m8を用いた曝露後予防接種を実施する体制が確立されている。濃厚接触者が特定できる場合には、曝露から14日以内の予防接種の適応について検討する。 ▶ エムポックス確定患者の濃厚接触者に対する曝露後予防の研究が2022年に開始された。2人のHIV陽性例を含む6人にLC16m8が接種されたが、重篤な有害事象やエムポックス症例の発生は認めなかった（Tomita N, et al. Hum Vaccin Immunother. 2023 Aug 1;19(2):2242219.）
甲状腺機能亢進症・バセドウ病	・最新の情報に基づいてコンテンツを見直し、改訂を行った。 ・多数例を用いたレトロスペクティブな研究では、抗甲状腺薬による無顆粒球症の発症頻度はチアマゾール、プロピルチオウラシルともに用量依存性があることが報告された（Yoshimura Noh J, et al. Endocr J. 2024 Jul 12;71(7):695-703.）。 ・甲状腺眼症の治療薬として、IGF1-R阻害剤テプロツムマブ（テッペーザ）が2024年11月20日に薬価収載された。
重症筋無力症	・最新の情報に基づいてコンテンツを見直し、改訂を行った。 ・分子標的薬に全身型重症筋無力症の適応が加わった。 ・AChR抗体陽性、全身型の成人発症重症筋無力症（MG）に補体C5を標的とした分子標的薬には、エクリズマブ、ラブリズマブ、ジルコプランの3種類がある。ただし、免疫グロブリン静注療法又は血漿浄化療法による症状の管理が困難な難治例に限り使用を考慮する（Oyama M, et al. Ther Adv Neurol Disord. 2020 Mar 18;13:1756286420904207.、Tokuyasu D, et al. Ann Clin Transl Neurol. 2024 May;11(5):1338-1346.）。 ・抗補体薬は、髄膜炎菌感染症に対する免疫機能が特に低下する可能性があるため、開始2週間前までに髄膜炎菌に対するワクチンを接種する必要がある。 ・胎児性Fc受容体の阻害薬であるエフガルチギモドとロザノリキシズマブは、自己抗体の有無に関わらず全身型MGで有効である（Suzuki S, et al. Neurol Clin Pract. 2024 Jun;14(3):e200276.）。 ・分子標的薬投与時は、血中IgG濃度を適宜測定し、感染症に注意する。

『今日の臨床サポート』とは

エビデンスに基づく日本語によるリファレンスツールです。
約1,430の疾患・症状概要、診断・治療方針などをご覧になることができます。ジェネリックを含む薬剤情報、疾患・症状の患者向け説明資料、インターネット版ではPubMedへのリンクもご用意しています。

QRコードまたはURLからアクセスできます。
イントラ版をご契約の施設では、院内端末からログイン
なしでご覧になることができます。

<https://clinicalsup.jp/jpoc/>

ログインには、①ユーザー名、②パスワード、
③施設コードが必要です。管理者の方にご確認
ください。

最新エビデンスをタイムリーに
受け取れます。ご登録はこちらから。

